

様式第 5 号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画	
1	教育実習等の内容及び成績評価等
①	教育実習等の時期 ＜教育実習＞ 4 年次 6 月～9 月
②	教育実習等の実習期間・総時間数 ＜教育実習＞ 高等学校 2 週間（60 時間）
③	実習校の確保の方法 ＜教育実習＞ 大学が実習生の希望や成績をふまえて福井県内の実習協力校を指定し、実習生が指定された教育実習校とのマッチング面談をおこなった上で内諾を得る。
④	実習内容 ＜教育実習＞ 1. 実習校でのオリエンテーション 2. 実習校の実習担当教員の授業参観 3. 担当授業の教案作成とその実習校の実習担当教員による指導 4. 実際の授業を担当する 5. 授業後、実習校の実習担当教員とともに見返りと反省を行う 6. 研究授業を行い、多数の教員からの評価を受ける 7. ホームルームの指導担当を行う 8. その他、生徒の学校活動全般の指導 9. 実習校の実習担当教員との連絡、相談
⑤	実習生に対する指導の方法 ＜教育実習＞ 大学での事前・事後指導、実習校での指導のほか、本学教員が直接実習校に赴き研究授業等を通じ指導する。その他、学生の指導については、教職専任教員と事務局が、実習校の実習担当教諭と打ち合わせて行う。大学で作成した実習日誌を持たせ、参考にし、詳細の報告を記入させるよう指導している。
⑥	実習の成績評価（評価の基準及び方法） ＜教育実習＞ 教育実習成績報告票による評価を指導担当教諭へ依頼する。評価項目については添付の教育実習成績報告票を参照。
2	事前及び事後の指導の内容等

① 時期及び時間数並びに②内容（具体的な指導項目）

<教育実習>

内 容	方 法	時 期	期 間
教育実習オリエンテーション	講義<大学教員>	1年次1月	1時間
教育実習全体の流れについて	講義<大学教員>	2年次1月	1時間
教職に関する講話（１）<教職経験者の講話>	講義<現職教員>	3年次11月	2時間
教職に関する講話（２）<学校現場の現代的課題>	講義<大学教員>	3年次11月	2時間
教職に関する講話（３）<安全及び救急看護について>	講義<大学教員>	3年次1月	2時間
教育関係施設における経験 嶺北特別支援学校、嶺南西特別支援学校 <特別支援学校での見学実習>	見学実習<現職教員、 大学教員>	3年次2月	6時間
教育実習実践指導<学習指導案作成・模擬授業>	講義・演習 <大学教員>	4年次4月	6時間
教育実習事前指導（１）<生徒とのかかわり>	講義<大学教員>	4年次4月	2時間
教育実習事前指導（２）<実習の実際的側面について>	講義<大学教員>	4年次4月	2時間
教育実習事前指導（３）<教育実習中の注意事項>	講義<大学教員>	4年次5月	2時間
教育実習事後指導 <ディスカッション等を通して実習経験を深め、 反省し、広げる>	演習<大学教員> 実習生による実習報告会で 反省と考察を行う。	4年次10月	4時間
計			30時間

③ 教育実習等におけるハラスメントの防止等に関する学生への指導（相談窓口の周知を含む）及び学内の相談体制等について

<学生への指導（相談窓口の周知を含む）>

教育実習事前指導の時間内において、学生が性暴力やハラスメントの加害者に絶対ならないこと、児童生徒から被害の相談を受けた場合は傍観者にならないこと等、ハラスメントの防止及びその適切な対応等について指導を行う。また同時に、教育実習期間中に学生がハラスメント等の被害を受けた場合はプライバシーが保護された上で、直ちに相談できる窓口が大学にあるとともに実習指導教員に直接被害を訴えることもできることを周知する。

<学内の相談体制>

学生が教育実習期間中に性暴力やハラスメントの被害を受けたりそれが疑われる事案が発生したりした場合、以下の相談窓口にご相談することができる。

・常設のハラスメント相談窓口

カウンセラーやキャンパス・ソーシャル・ワーカー等のハラスメント相談員による相談窓口

・教育実習期間中のハラスメント相談窓口

教育実習指導教員による相談窓口

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称
教育研究委員会 教職課程部会
- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）
 - （１）部会長
 - （２）各学科から教員１人
 - （３）学術教養センターの教員１人（教職に関する科目を担当する教員）
 - （４）教育・学生支援部長、教育推進課長によって構成
- ・ 委員会等の運営方法
必要に応じて随時開催する。教育実習生の承認や実習指導内容の改善等、教育実習をはじめとする教職課程全般の運営について審議を行う。

【委員会の組織図】

別途添付のとおり

- ② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

- ・ 委員会等の名称
教職課程部会
- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）
 - （１）部会長
 - （２）各学科から教員１人
 - （３）学術教養センターの教員１人（教職に関する科目を担当する教員）
 - （４）教育・学生支援部長、教育推進課長によって構成
- ・ 委員会等の運営方法
必要に応じて随時開催する。

【委員会の組織図】

別途添付のとおり

4 教育実習の受講資格

1. 4年次開始時点で以下に掲げる科目を履修済であること。
「教師論（２単位）」「教育原理（２単位）」「教育心理学（２単位）」「教科教育法Ⅰ（２単位）」の計８単位
2. 教育実習事前指導を受講していること。
3. 上記すべてを満たしたうえで、登録申請を行った者に、教職課程部会にて受講を許可する。

5 実習校

教育実習	体験活動	学級数の合計	高等学校 64 学級
○	×	学校名	福井県立勝山高等学校（福井県勝山市昭和町２丁目３－１） 学級数：12 生徒数：325 人
		教員数	43 人 （内訳） 教諭 33 人、 養護教諭 1 人、 非常勤講師 9 人
○	×	学校名	福井県立大野高等学校（福井県大野市新庄 10－28） 学級数：16 生徒数：405 人
		教員数	43 人 （内訳） 教諭 35 人、 養護教諭 1 人、 非常勤講師 7 人
○	×	学校名	福井県立福井農林高等学校（福井県福井市新保町 49－1） 学級数：12 生徒数：380 人
		教員数	64 人 （内訳） 教諭 48 人、 養護教諭 1 人、 非常勤講師 15 人

○	×	学校名	福井県立坂井高等学校（福井県坂井市坂井町宮領 5 7－5） 学級数：24 生徒数：738 人
		教員数	104 人 （内訳） 教諭 91 人、 養護教諭 1 人、 非常勤講師 12 人

福井県立大学 教育実習成績報告票

令和 年 月 日

実 習 校

都道府県名	学 校 名	学 校 長 氏 名	実 習 担 当 教 員
		印	印

実習生・実習教科

学 部 ・ 学 科	年 次	学 籍 番 号	氏 名	実習教科名
	回生			

出 勤 状 況

実 習 期 間	出席すべき日数	出席した日数	欠 席 し た 日 数			遅 刻	早 退
			病 欠	事故欠	その他		
自 月 日							
至 月 日	日	日	日	日	日	日	日

事 項 別 評 価

区分	事 項	(お も な 着 眼 点)	評 価			
学 習 指 導	基 礎 学 力 ・ 知 識	ことばが明瞭で、文字が正しく書け、基礎的な知識、学力を有しているか、など。	A	B	C	D
	教 材 研 究 ・ 工 夫	教材研究や準備をよくやり、計画的に創意工夫をし、指導をおこなおうとしたか、など。	A	B	C	D
	指 導 態 度 ・ 技 術	到達目標を明らかにして、すべての生徒によく理解させるよう努力し、生徒のつまづきなどの原因を明らかにしようとしたか、など。	A	B	C	D
生 徒 指 導	個 別 ・ 集 団 指 導	個々の生徒および学級集団全体に着目し、問題に応じて個別的・集団的に解決しようとしたか、など。	A	B	C	D
	生 徒 へ の 接 触	生徒の中にとけこみ、個々の生徒をよく理解しようとしたか、など。	A	B	C	D
	教 科 外 指 導	学級活動・クラブ活動等の指導を意欲的におこなったか、など。	A	B	C	D
実 習 態 度	勤 務 態 度 ・ 熱 意	勤怠を含めて、教育的熱意はみられたか、など。	A	B	C	D
	事 務 ・ 実 務 能 力	学級経営上の事務処理などがうまくできたか、など。	A	B	C	D
	レ ポ ー ト な ど の 提 出 物	レポート・実習簿・研究物・書類などを主題に即して的確に記述し、期限を守って提出したか、など。	A	B	C	D
	教 育 的 視 野	職場・地域などの様子を理解しようとし、自主的・協力的に教育を進めようとしたか、など。	A	B	C	D

総 合 評 価

A B C	D	実習生としての努力と成果に着目して、左欄 A（優）、B（良）、C（可）、D（不可）のいずれかに○印を付けてください。 A：よく努力し、実習の実をあげることができた。 B：努力し、実習の成果はあった。 C：いま少しの努力と実習の成果が望まれる。 D：全く努力に欠け、実習の成果は認められなかった。
-----------------	---	--

概 評	

備考 本票の使用については、裏面の「福井県立大学 教育実習成績報告票についての補足説明」をご参照ください。

「福井県立大学 教育実習成績報告票」についての補足説明

1 事項別評価

事項別評価については、各着眼点を十分御留意していただき、実習校の実情に即して指導・評価して下さるようお願いいたします。

しかしながら、実習校の実状によっては、例えば「学習指導」面にのみ重点がおかれ、「生徒指導」的な側面にふれることが少ない場合があるかもしれません。その場合でも、「学習指導」そのものが「生徒への接触」であることを考慮して評価して下さることを期待します。

2 総合評価

この欄は、「事項別評価」の単なる平均としてでなく、10項目の中に含み得ない一般的内容も加味され、総合的に評価していただくことを希望します。

なお、この教育実習成績評価票は、教育実習生の評価のためにのみ使用していただくもので、学校や教育実習生担当教員の教育方針や内容を規制するものではありませんので、よろしくお願いいたします。

受 入 承 諾 書

教職課程認定の上は、福井県立大学恐竜学部（仮称）の学生の教育実習協力校として承諾します。

（承諾に際して付した条件）

実習を実施する際は、受け入れ人数および実習内容等について、事前に調整を行うこと。

令和5年8月3日

福井県立大学

学長 岩崎 行玄 様

福井県立勝山高等学校

校長 朝倉 剛司

受 入 承 諾 書

教職課程認定の上は、福井県立大学恐竜学部（仮称）の学生の教育実習協力校として承諾します。

（承諾に際して付した条件）

実習を実施する際は、受け入れ人数および実習内容等について、事前に調整を行うこと。

令和5年10月25日

福井県立大学

学長 岩崎 行玄 様

福井県立大野高等学校

校長 中森 雅巳

受 入 承 諾 書

教職課程認定の上は、福井県立大学生物資源学部の学生の教育実習協力校として承諾します。

(承諾に際して付した条件)

実習を実施する際は、受け入れ人数および実習内容等について、事前に調整を行うこと。

令和6年1月15日

福井県立大学

学長 岩崎 行玄 様

福井県立福井農林高等学校

校長 今澤 ひかり

受 入 承 諾 書

教職課程認定の上は、福井県立大学生物資源学部の学生の教育実習協力校として承諾します。

(承諾に際して付した条件)

実習を実施する際は、受け入れ人数および実習内容等について、事前に調整を行うこと。

令和6年1月26日

福井県立大学

学長 岩崎 行玄 様

福井県立坂井高等学校

校長 清水 一広

福井県立大学 組織図

